

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101819
法人名	医療法人 慈成会
事業所名	グループホームほほえみ
所在地	徳島県徳島市津田西町1丁目9-5 (電話) 088-663-3428

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 9 月 23 日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤:6人、非常勤:2人、常勤換算:7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		-	円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 3 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慈成会 寺沢病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は山路の住宅街の一角に位置し、周囲には雑木林があり閑静な場所にある。利用者は地元出身者が多く、職員は神社の清掃や敬老会、祭事などの地域の行事に積極的に参加できるよう支援している。職員は介護に対する熱意が高く、研修や勉強会などに積極的に参加している。事業所から徒歩数分のところにある同法人の医療機関と24時間の協力体制がとられ、利用者や家族にとって安心した生活が支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である市町村との連携について、職員間で話し合われている。直接市町村に出向き入退居者の報告や外部評価の結果報告等をし、話し合う機会を持つなど改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義と目的を全職員が理解している。外部評価の結果をケアの指標として管理者や職員は共に自己評価に取り組み、ケアの質の向上に繋げるよう日々努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し利用者や家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、法人関係者、管理者、職員などが参加している。会議では事業所から利用者の日常生活の様子や事業報告などが行われ、参加者からは地域の行事への参加案内や認知症に対する質問などがあり、活発な意見交換が行われている。会議内容は議事録に残して全職員に周知し、サインがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の日頃の暮らしぶりなどは写真を添えて家族に伝えている。家族の意見などは手紙や来訪時、運営推進会議などで常に問いかけ、どんな内容でも宝物と思う気持ちで受け止めている。出された要望などについては全職員で検討して改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の方はほとんど地元出身者であり、外出の際には地域の方たちとお互いに挨拶を交わすことが日常的になっている。また食事会への招待を受けることもある。事業所からは神社の清掃や敬老会、祭事へ参加するなどの交流が活発に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合いを重ねて地域密着型サービスとしての独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は朝のミーティング時に理念について話し合い、サービスに反映できるよう努めている。またパンフレットに表記したり事業所内に掲示するなど、外部に向けても明示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の方はほとんど地元出身者であり、外出の際には地域の方たちとお互いに挨拶を交わすことが日常的になっている。また食事会への招待を受けることもある。事業所からは神社の清掃や敬老会、祭事へ参加するなどの交流が活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義と目的を全職員が理解している。外部評価の結果をケアの指標として管理者や職員は共に自己評価に取り組み、ケアの質の向上に繋げるよう日々努力している。改善に向けた取り組みは記録に残し、全職員に周知されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し利用者や家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、法人関係者、管理者、職員などが参加している。会議では事業所から利用者の日常生活の様子や事業報告などが行われ、参加者からは地域の行事への参加案内や認知症に対する質問などがあり、活発な意見交換が行われている。会議内容は議事録に残して全職員に周知し、サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	直接市町村に出向き入退居者の報告や外部評価の結果報告等をし、話し合う機会を持つなどしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時などに日頃の暮らしぶりを報告している。また毎月、請求書と一緒にホーム便りや金銭出納簿のコピー、近況報告を送付している。緊急の場合はその都度連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置したり、外部相談窓口のポスターを掲示するなどしている。また契約時には気軽に意見などを言ってもらえるよう十分説明している。出された要望などにはできる限り応えられるよう配慮し、職員間で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少なく馴染みの関係による支援が行われている。やむを得ない場合には利用者の混乱を招かないように十分な説明を行い、納得を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会などに積極的に参加できるように体制づくりをしている。研修などには全職員が参加できるように順番制にしている。参加した職員は必ず伝達講習を行い、全員が共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して同業者3か所と行う相互評価事業に取り組んでいる。また研修などの参加者とお互いに情報交換するなど、より質の高いサービスを提供できるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい十分説明しながら納得してもらった上で利用を開始している。入居当初は不安を緩和できるよう家族や馴染みの方たちと、できるだけ面会に来てもらえるよう相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる事とできない事を見極め、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。食事の盛り付けや洗濯物の整理、庭掃除など日常的な役割を分担している。また利用者の趣味である折り紙を職員と互いに教えあいながら共に支えあう関係を築いている。お互いに感謝しあう気持ちを大切に支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で利用者の思いや希望などを感じ取り、職員間で話し合いを重ね、本人の意向にそった支援が行えるよう努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者との話し合いをとおして情報交換し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見や要望を取り入れ、また、関係者と話し合い、本人の望む生活ができるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直されている。また状態の変化によりその都度見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じてかかりつけ医への受診の付添いなどを行っている。利用者の希望により時間を問わず買い物に行く時もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。体調不良時や緊急時には協力医療機関と協力し、24時間対応できるよう連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の方針を家族から聞き取っている。医療面からの支援が必要になった場合には利用者や家族、主治医などと話し合い、方針を定めている。方針は書面をもって関係者全員に周知されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護については契約書に明記され、職員にも周知されている。個人記録などは決められた場所に保管されている。日常的な言葉遣いやケアにおいても勉強会などとおして職員の意識を高める工夫を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の様々な場面や話の内容から一人ひとりの希望を察知し、その日の体調などに合わせて買い物や散歩などができるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員とともにテーブル拭きや盛り付け、お茶配り、後片付けなどを楽しみながら行っている。定期的に嗜好調査を行い、メニューに反映させている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝一番の方や夕方、就寝前など一人ひとりの生活習慣に配慮して希望にそった入浴を支援している。入浴を嫌がる方などには十分な説明により納得の上で入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量に合わせて、また楽しみながらできる役割を見つけて支援している。庭掃除や歌づくり、折り紙、工作などを行っている。手芸などでできた作品は事業所内に展示して来訪者の目につくようになっており、おほめの言葉をもらうこと等で利用者の張り合いになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所は自然に恵まれた場所にあるため、玄関前の広場で外気に触れたり近隣の方たちと話をしたりして過ごすことが多い。また体調を見極めながら散歩や買い物など外出の機会も持っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関は道路までの距離が短いため、防犯上施錠している。利用者には解錠方法が伝えられ、一般的な鍵の使用により扱いも簡単である。利用者は自由に出入りし、そのつど職員が付きそっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力により年に2回実施している。火災発生時の初期消火や避難誘導、消火器の取り扱い方などを訓練している。地域の人々の協力も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量を記録し、職員は情報を共有している。定期的に併設病院の管理栄養士に相談しながら栄養バランスに配慮した食事を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には畳やソファが置かれ、利用者は思い思いに談笑しくつろいでいる。壁には利用者の作品が飾られ、居間と台所の境には折り鶴で作ったカーテンがある。台所から食事の用意の音やにおいが居間まで伝わり、家庭的な雰囲気が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	配偶者の仏壇を持ち込んで供養したり、家族の写真を飾ったり愛用のタンスを持ち込むなどしている。利用者一人ひとりの希望に応じて居心地よく過ごせるよう工夫している。		